

世界史：抑圧と搾取についての序論

1849～1913年 米国海軍軍艦が「米国民の生命と財産を保護するため」、
24回にわたってハイチ領海に侵入。

1853年 ペリー海軍の軍人が日本へ来航。

1873年 米国海兵隊がハワイに上陸し、米国植民者を支援。

1893年 米軍がハワイに上陸し、戒厳令を強要。リリウオカラニ女王が降伏し、
翌年にハワイ共和国が設立。

1898年 マッキンレー大統領によるフィリピン併合。

1900年 マッキンレー大統領が大規模な軍隊を中国に派遣し、義和団事件に介
入。「門戸開放」政策を強制。

1903年 米国はパナマがコロンビアに対し反乱を起こすよう圧力をかけ、セオドア・ルーズベルト大統領は米軍を送ってパナマの分離を確実なものとした。

(この行動がパナマ運河建設への道を開いた。)

同大統領はまたもや軍事介入によって、キューバ及びドミニカ共和国が米国管理下にある状態を維持、あるいは擁護した。

後継者のタフト並びにウィルソン大統領もハイチとニカラグアについて同様な措置を取った。(エンリケ・デュッセルによれば、米国はニカラグアに対し400回を越す介入を繰り返してきた。)

1915年 ウィルソン大統領によるハイチ侵攻。

1928年 海兵隊のニカラグア派遣。

ビル・ガンダルによれば、彼は1928年に海兵隊の一員としてニカラグアに渡り、オーグスト・セサル・サンディーノ率いる勢力と二年間戦った。「われわれはサンディーノを決して捕えることはできなかった。どのように拷問しても誰も彼の居所を吐かなかったからである……。私は投票所で一人の男性を撃った……。」

(1928年に不正選挙が行われた。) 彼はまた、強姦に加わり、家々を焼き払い、

性器を切り取ったと語った。

第二次大戦中、日本軍は実験のため生物兵器を用いて約 3,000 人を殺害。犠牲者の中には米軍捕虜も含まれていたが、米軍は戦後、日本側に働きかけ、これらの実験を隠蔽することで米国が実験結果を利用できるように取り計らった。

実験を指揮したのは石井四郎中将であった。

1953 年 CIA はイランのムハンマド・モサデク政権転覆を工作し、シャー（ムハンマド・レザー・パーレビー王）を政権の座に据えた。統治期最後の 20 年間に、シャーは武器購入に 360 億米ドルを費やした。彼はまた、CIA がそこからソ連のミサイル発射試験を監視できる電子聴音哨をソ連国境近くに設置した。イランの 66,000 村落のうち、63,000 の村には水道が敷設されていなかった。テヘランには下水道設備は無かった。1971 年ペルセポリスにおいて、1 億米ドルをかけた王政二千五百年祭が華々しく開催された。そこには、パリのマキシムから 165 人の料理長が呼ばれた。また、王室の 50 人の制服はランバンがデザインしたもので、一着につき 1 マイルの金糸が使われた。シャーはかつて『タイム』誌に対し、彼の秘密警察が拷問を行うことを認めた。シャー体制及びそれ

を支える米国に対する鬱積したイラン人民の嫌悪は、1979年の革命、米国大使館占拠、そしてそれに続くあらゆる出来事において爆発した。

1954年 CIAはエドワード・ランズデールを通じて、ベトナムにおけるゴ・ディン・ジエムの政敵打倒を組織した。ランズデールは翌年、ジエムに手を貸して、国民投票を不正に操作し、国家元首であったバオ・ダイを退陣させるとともに、新生ベトナム共和国の大統領に就任させた。

1954年 アイゼンハワー政権はグアテマラで初めて民主的に選出された政府を転覆させるため、同国への軍事的侵攻を組織、指揮した。アルベンス政府が行った反米行為は、土地改革計画の一環として、米国企業所有のユナイテッド・フルーツ社（現在のユナイテッド・ブランズ）の遊休地を（補償を支払って）収用したことであった。（国務長官及びCIA長官はユナイテッド・フルーツ社に大きな利権と提携関係があった。）

元海兵隊大佐、フィリップ・ロツティンジャーが語ったところによれば、彼は1954年にグアテマラのヤコボ・アルベンス・グスマン大統領打倒の手助けをし

た。この結果、一連のクーデターや内紛が生じ、十万人以上の死者が出たほか、四万人が行方不明となったという。1980～1990年の間に、14人の聖職者が殺害された。

1955年 リチャード・ニクソン副大統領はグアテマラを訪れ、クーデターの成功を祝った。

1957年 海兵隊、レバノン上陸。

1957～1958年 CIAが助長に努めていた、インドネシアのスカルノ大統領に対する反乱期に、同機関は爆破任務に関与した。

1961年 ケネディ大統領はカストロ議長打倒のため、彼に敵対する一群をキューバに送り込んだ（「ピッグズ湾」侵攻）。

CIAはカストロを葬り去ろうと試み、爆発する葉巻を送ったり、あごひげを取り去るべく脱毛粉を彼の身の回りに置いた。

ケネディは南ベトナムを攻撃した。また、自身が暗殺されてから間もなく起

こったブラジルの軍事クーデターを支援していた。この結果、ブラジルでは20年以上にわたって独裁が続き、ラテン・アメリカの主要国では初めて、ナチスをモデルにして国家の治安をはかる国が登場した。これはラテン・アメリカ地域全体に非常に重要なドミノ効果を及ぼした。

CIA 部員はブラジルの治安要員に洗練された拷問方法、すなわち殺害までに至ることなく囚人を痛めつける方法を教授した。当時の米国議会公聴会で明らかにされたこととして、米国大使館員は拷問が広範囲に使用されていたのに気づいていたが、軍事政府が米国からの投資を歓迎していたので、これを無視したという事実がある。

ウルグアイ海軍から脱走する以前、拷問に関与していたという一人のウルグアイ人によれば、拷問方法の訓練は米軍教本を基にしており、ウルグアイの拷問者はパナマで米国政府職員から訓練を受けるという。

ケネディはグアテマラで民主的な選挙が行われることを恐れ、軍事クーデターを支援した。

同政権はまた、エルサルバドルにおける暗殺団の基本構造を作り、クーデターを支援した。「ケネディ政権期の1960年代初頭、米国政府特務機関員は、その後15年以上にわたり何千人もの農民や左派嫌疑者を殺害した、二つの公的治

安組織を設立した。これらの組織は米国スパイの指導下で準軍事組織に発展・統合され、エルサルバドル死の軍団として知られるようになった。」

1965年 海兵隊のドミニカ共和国侵攻。フアン・ボッシュ民主資本主義政権を妨害し、そこで発生した軍事クーデターを歓迎した。

ジョンソン大統領は世間を欺き、ベトナムでの全面戦争を招いた「トンキン湾決議」を行った。

ナサニエル・デービスはニクソン大統領から任命され、ピノチェト將軍によるクーデターが発生した1973年までの二年間、チリ大使を務めた。彼によれば、CIAはサルバドル・アジェンデのチリ大統領就任を阻止する計画をたてた（アジェンデはクーデターで殺害された）。

1975年、ヘンリー・キッシンジャー国務長官は、アンゴラ内紛における親米勢力の勝利を支援するため、3,200万ドルの緊急援助の手配を秘密裏に進めた。

1977年 パキスタンにおけるクーデター（7月）。

1979年 パキスタンの失脚した大統領、ズルファカール・アリ・ブットーの殺

害。これは、ズビグニュー・ブレジンスキーの影響下にある国家安全保障会議に黙認され、了承された。

1980年 トルコ暴動（9月）。

1983年 グレナダ侵攻。

レーガン政権は、CIA がニカラグアの港湾に機雷を敷設することを承認。この行為につき、サンディニスタが米国政府を訴えた裁判で、国際司法裁判所は違法との判決を下した。しかし、米国はこの判決を無視した。

CIA は国内法を犯して、ニカラグアでの戦闘に直接従事した。同機関の戦闘員は、武装ヘリコプターで飛来し、銃撃した。このヘリコプターは米国機に護衛されていた。

1986年 米国のリビア爆撃。

1989年 ブッシュ大統領、パナマ侵攻。

1991年 国連による制裁が無いまま、米国はイラクとの交戦を決定した。

1990年 6月30日現在、日本に駐留する米軍兵力は47,400人。

1990年8月（湾岸戦争準備のため中東に兵力増強する）以前には、435,000人の米軍が、35の諸外国にある395の主要軍事基地に配備されていた。さらに、47,000人の海軍・海兵隊要員が他国領海上に停泊する船に駐留。また、10,000人の米軍が、米国領にある20の軍事基地に駐留していた。これらの米国領とは、グアム、ジョンストン・アトル、マーシャル諸島、ミッドウェー島、プエルトリコ、ヴァージン諸島及びウエーク島である。